

# 学習意欲を高める教材づくりの実践研究

教育実践研究科 教職実践専攻 教職実践基礎領域  
阿部大輔

## I はじめに

学習指導要領で、「確かな学力、豊かな心、健やかな体」の3要素を育む生きる力が重要視されている。学力を育むうえで、①基礎的基本的な知識及び技能の習得、②課題を解決するための思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度、の3点が小学校学習指導要領総則に記載されている<sup>i</sup>。また、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領改訂について」(2008)の7つの基本的な考え方の一つで学習意欲の向上や学習習慣の確立が挙げられている<sup>ii</sup>。

このように学習意欲を高めることは今日の教育課題の一つであり、生きる力を育むうえで大切な要素といえる。

平成25年度の全国学力・学習状況調査によると、「学習に対する関心・意欲・態度」は国語においては減少、算数においては増加傾向にある。学習意欲に対する項目に肯定的に回答した児童の方が教科の正答率が高い傾向が見られる<sup>iii</sup>この調査から、学習意欲を高めることが学力向上につながると予想される。

(表1) 平成25年度学力・学習状況調査 学習に対する関心・意欲・態度(国語)

○ 国語の勉強は好きですか

	国語A	国語B
①当てはまる	68.2	55.3
②どちらかといえば、当てはまる	64.4	51.9
③どちらかといえば、当てはまらない。	60.8	47.7
④当てはまらない	55.3	39.0

(表2) 平成25年度学力・学習状況調査 学習に対する関心・意欲・態度(算数)

○ 算数の勉強は好きですか

	算数A	算数B
①当てはまる	83.8	66.2
②どちらかといえば、当てはまる	77.8	58.8
③どちらかといえば、当てはまらない。	72.6	53.6

④当てはまらない	65.3	44.7
----------	------	------

私は学校サポーターを通して多くの先生の授業を観察してきた。その中で先生たちは自身の授業力や子どもたちの学習意欲を高めるため、様々な工夫をしていた。

その中の一つとして教材の開発・活用があった。教材を用いて子どもたちの学習意欲を高めていくことが必要であると感じた。本報告では教材の開発・活用を用いた指導の工夫について述べていく。

## II 主題テーマ設定の理由

### 1 サポーター校の実態

全校児童約520人、学級数20学級の学校である。130年以上の歴史を持ち、古くからの地区は保護者が本校の卒業生という家庭も多い。また、宅地造成された地区があり、多様な考えを持つ保護者が増加している。伝統的に縦割り活動に力を入れており、通学団による登下校の他に清掃活動や集会活動などを通して、学年を超えた結びつきを持つようにしている。

### 2 配当クラスの実態

4年1組は男子14名、女子14名、計28名である。男女の仲が良く、休み時間は外で遊ぶ子が多く見られる。授業では自分の考えを持ってはいるが、発表する際、遠慮してしまう様子がある。また、他人を傷つけるような言葉遣いも見られる。

このような実態から、自分に自信がない、自分や他人のよいところがわからないといったことが考えられ、教材を活用しながら、子どもたちの自己肯定感を高める実践を実習で行おうと考えた

### 3 教材論について

授業は「材料七分に腕三分」と有田和正は述べている。材料とは教材、腕は技術に当たる。有田和正はよい教材の条件として、①おもしろい、②基礎的・基本的な内容が入っている、③学習方法がよくわかると定義している。しかし、提示だけでは食いつかない教材が多いため、技術が必要、とも述べている。

有田和正が定義している技術は、①発問・指示、②資料の活用、③板書、④話術・表情・ジェスチャー、⑤人間性、があげられ、技術を活用することで教材を生かすことができると述べている。

教材辞典(2013)<sup>iv)</sup>によると教材を活用した際の授業の構造を次のように定義している。

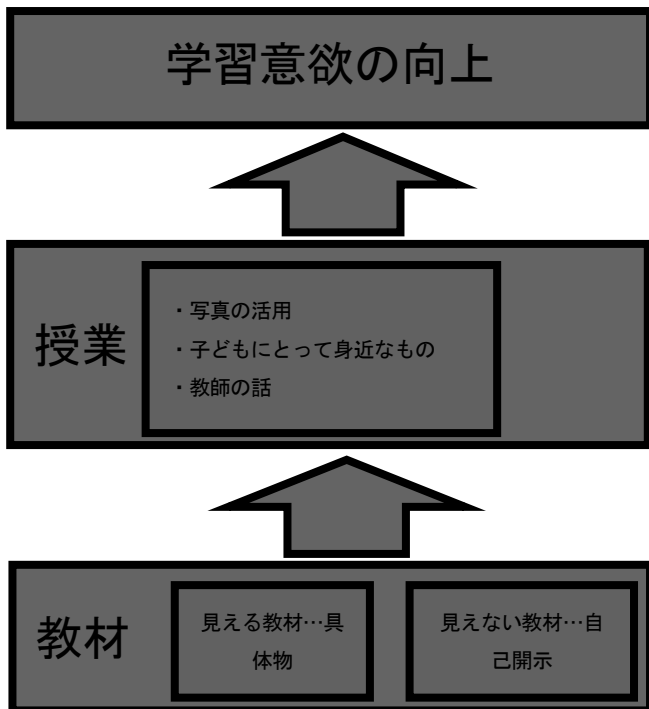
(表 3) 教材を活用した際の授業の構造

- ・学習者と教師が醸し出すその場の雰囲気
- ・教材としての教師(教師の教育観、人間観)
- ・教材解釈(教材に対する教師の解釈)
- ・教材構造(教材のエッセンス)

教材辞典によると、教師の教育観、人間観、態度、雰囲気も教材になると述べている。これは具体物などの教材に対し、見ることはできない内容であり、有田が述べた人間性もこの部分に当てはまる。

教材には具体物を用いた実物教材(見える教材)と子どもとの関係や教師の教育観などの見えない教材が存在する。見える教材は、写真や子どもにとって身近な具体物などを提示することで活用できる。一方、見えない教材は教師が子どもにする話、教師と子どもとの関係を築く手段として指導に生かされる。

見える教材と見えない教材に焦点をあてながら実習Ⅰでは見える教材の実物教材、見えない教材では教師自身の自己開示に焦点を当て実践を行った。実習Ⅱでは見える教材のうち算数の実物教材を中心に実践を行った。また、実習Ⅰ・Ⅱ、サポーター活動を通して朝の会の時間で、都道府県の話という実践を行った。



(図 1) 実践計画図

### Ⅲ 教師力向上実習Ⅰの実践

#### 1 実践研究の視点

##### ① 道徳「力持ちの新助さん」

##### ア 本單元における教材の工夫

実践を行うにあたり、第1週目に学級活動「よいとこビンゴ」で自分の現状を振り返り得意なところ、良

いところを子どもたちに考えさせた。

教材研究のために、物語に出てくる力石が西尾市の若一神社にあるため、実物を写真に撮った。その際、自分が持ち上げている様子の写真を掲示することで、物語に対する子どもたちの興味が高まるのではないかと考えた。



(図 2) 若一神社での写真

#### イ 教材にかかわるねらい

実物を写真に撮る際、教師と一緒に移ることで、子どもたちの反応がよくなるのではないかと考えられる。また、写真に写っている5つの石は一人では持ち上げることのできないくらい重い石である。自身が持ち上げている様子にすることで、説話の主人公の新助の長所、頑張りを伝えられるのではないかと予想される。

それにより、自信の得意なことや長所を伸ばす意欲を引き出せるのではないかと考えた。



(図 3) 道徳の授業の様子

#### ② 学級活動 「よいとこビンゴ」

##### ア 本單元における教材の工夫

導入部分において、教師自身が得意なことや、よいところを9つ発表することで、書きやすい雰囲気を作れるのではないかと考えた。その際、子どもの発達に合わせて理解しやすい内容にした。

#### イ 教材にかかわるねらい

実践を行うにあたり、教師のよいところ、得意なところを考えた。

(表 4) 「よいとこビンゴ」において提示した教師の例

- ・集中力がある ・笑顔がすてき
- ・あいさつができる ・サッカーが好き
- ・ポジティブ ・人にやさしい
- ・社会が好き ・野球が得意
- ・給食を多く食べる。

以上 9 個を実際に子どもたちの前で掲示した。子どもたちの中には自分のよいところが分からなかったり、ワークシートに書くのが恥ずかしい子もいる。子どもたちが普段からできていることを教師が例を示すことで、自分のよさに気付くとともに、なんでも書いていいという雰囲気を作れるのではないかと考える。

全体で交流する際、相手のよいところに対して否定的なことを言う子も予想される。活動前の段階で教師が否定的なことを言わないよう説明する必要がある。

交流を行った後、子どもたちの中には、ビンゴが少ない子も予想される。そういった子たちのためにも教師が交流の様子から他者と違ういいところがたくさんあったことを話していく。



(図 4) 学級活動の授業の様子

### ③ 学級活動 まほうつかいがやってきた

#### ア 本單元における教材の工夫

導入部分において、「よいとこビンゴ」と同様に教師自身が自分のなりたいこと提示する。子どもの発達に合わせた内容で提示することで、取り組みやすい雰囲気を作れるのではないかと考えた。

(表 5) 発表の際の文章の型

#### 1 日だけ変身させてあげよう

・ぼく、わたしは 1 日だけ変身するなら～になりたいです。変身したら～したいです。

#### 1 回だけ過去に戻してあげよう

・ぼく、わたしは～に戻りたいです。そこで、ぼく、わたしは～をします。

#### 願い事を 3 つかなえてあげよう

・ぼく、わたしの願い事の 1 つ目は～です。2 つ目は～です。3 つ目は～です。ねがいごとがかなったら～をしたいと思います。

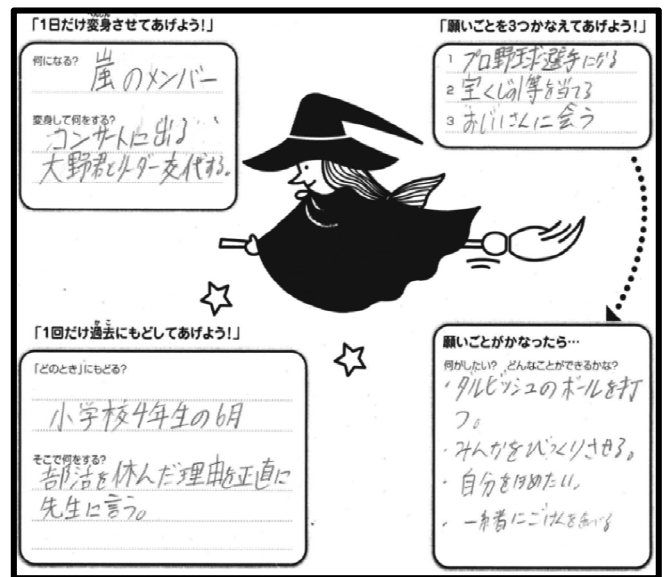
「よいとこビンゴ」の際、発表の仕方を示さなかつ

たことにより、質問の時間が多くなり、活動の時間が短くなってしまった。そのため、話し方の文章を作り、教師が例を示すことで、子どもたちが活動しやすくなるのではないかと考えた。

#### イ 教材にかかわるねらい

「よいとこビンゴ」と同様に、自身のものを考えた。教師自身が書いた内容のねらいとしては 2 点ある。1 点目は子どもの目線である。休み時間や給食の時間などで、子どもと会話をする中で、子どもたちの流行が分かった。またサポーター校では 4 年生から部活が始まっている。子どもたちは部活に対する思い入れが強く、期待が大きいことが分かったので、クラスの中で流行しているものや教師の 4 年生時の部活の出来事を取り上げることで、子どもたちが興味を示したり、実感がわくのではないかと考えた。

2 点目は、大人目線である。子ども目線のみであれば、教師の書いた内容が子どもに信じてもらえない可能性がある。大人目線から内容を取り入れることで、教師自身が本当になりたいという気持ちが、子どもに伝わるのではないかと考えた。



(図 5) 実践でのワークシート(拡大して提示)

## IV 教師力向上実習Ⅱの実践

### 1 教材研究の視点

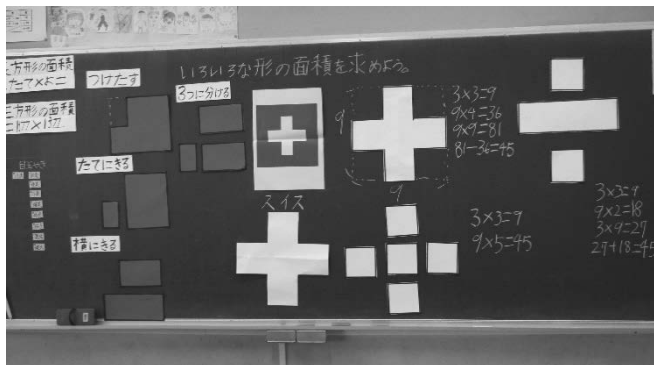
#### ① 算数 4年 面積

#### ア 本單元における教材の工夫

主に国旗を教材として取り扱った。理由としては、子どもにとって身近であり、学校生活以外でも見慣れていると考えたためである。また、都道府県の話が終わった後、世界地図の国旗を見ている子もいることから選択した。第 7, 8 時限の変形図形の学習ではチョコレートも教材として取り扱った。チョコレートの一部分を欠けているものを提示することで変形図形との関連を高めていく。なお、黒板に掲示する際はチョコレートと色が似ている茶色の画用紙

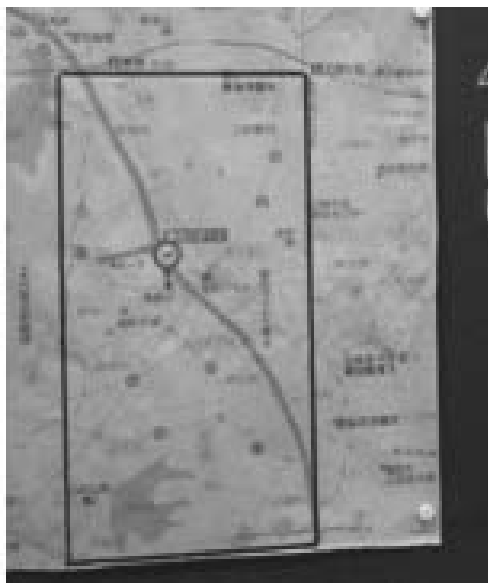
を使っていく。

また、変形図形を求める際に求め方に名前を付けることにした。名前を付けることで、求め方の統一ができると考えた。



(図6) 算数第8時の板書

1 km<sup>2</sup>の学習の際、学区を含む市の地図を取り扱う。自分たちの住んでいる学区というのは見慣れているものの、実際の大きさは分からないものである。学区の広さを地図上で確認するとともに、面積の単位で調べることが興味・関心が高まるのではないかと考えた。



(図7) 市の地図(実践では黒枠の部分を求めた)



(図8) 1 m<sup>2</sup>作成の様子

1 m<sup>2</sup>は新聞紙を用いて作成した。新聞(紙)は教室におかれているが、見ている子は少ない。また、家庭にも

新聞(紙)はあるものの、実際の大きさがどれくらいかは分からないと予想される。新聞(紙)という普段見慣れているが、実際の大きさが分からないものを取り上げることで、活動意欲が高まるのではないかと考えた。



(図9) 作成した1 m<sup>2</sup>

1 a は運動場で作成した。1 m<sup>2</sup>と同様に実際の大きさがどれくらいかは分からないと予想される。実際に作成することで、実感を伴った理解を得られるのではないかと考えた。



(図10) 運動場で作成した1 a

## V 「都道府県の話」

### 1 本実践における教材の工夫

小学校学習指導要領社会科第3学年及び第4学年の内容において都道府県の学習が明記されており、47都道府県の位置と名称を学習する。配当クラスでは前学年において、自分たちの身近な地域の学習を社会科で行っている。各都道府県の有名人や特産物などを取り上げることで、愛知県以外の都道府県にも視野を広げていく。その際、実物を提示することで、子どもたちの興味・関心を高めていく。今まで、興味・関心がなかった分野に気付かせることで、新たな発見や子どもの可能性を伸ばすことができるのではないかと考える。

各都道府県の興味・関心を高め、視点を広げること

をねらいとし、実習Ⅰ・Ⅱを含め学校サポーターの期間を通して行った。

(表6) 「小学校学習指導要領 社会編」

社会科第3学年及び第4学年 <b>2 内容</b> (6) 県(都、道、府)の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ県(都、道、府)の特色を考えるようにする。 ア 県(都、道、府)内における自分たちの市(区、町、村)及び我が国における自分たちの県(都、道、府)の地理的位置、47都道府県の名称と位置。 イ 県(都、道、府)全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置。 ウ 県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活。
---

**2 実践方法**

実践をするにあたり、地図帳を活用した。学習指導要領にも明記されているよう、各都道府県の位置も確認する必要がある。導入で教師が「今日は〇〇県の話をお願いします。」といった後、子どもたちが地図帳でその都道府県を見つけていった。なお、見つけた子に関しては挙手で確認した。

地図帳で確認した後、「〇〇県について知っていることはありますか」と尋ねた。4年生という学年から子どもたちは各都道府県が特徴、特産物などを知らないと予想される。そのため、各都道府県について知っていることを尋ねることで、興味・関心が高まるのではないかと考えた。その後、教師が各都道府県の話をしていった。子どもたちが見たことがないものは実物や写真を提示することで、イメージをしやすくした。

(表7) 実習Ⅰで取り上げた内容

	都道府県	内容
①	愛知県	愛知用水について
②	青森県	りんごについて
③	宮城県	東日本大震災について
④	北海道	北海道の名づけた人
⑤	和歌山県	エルトゥールル号事件
⑥	宮崎県	鶴戸神宮に行くまで
⑦	熊本県	阿蘇山について
⑧	香川県	うどんについて
⑨	富山県	薬について
⑩	静岡県	浜名湖について
⑪	埼玉県	自身の体験
⑫	茨城県	納豆について

(表8) 実習Ⅱで取り上げた内容

	都道府県	内容
①	山形県	さくらんぼについて
②	京都府	京都の歴史
③	岡山県	桃太郎について
④	栃木県	宇都宮ギョーザについて

(表9) サポーター活動で取り上げた内容

	都道府県	内容
①	岐阜県	さるぼぼについて
②	愛媛県	正岡子規について
③	福岡県	バナナのたたき売りについて
④	東京都	東京オリンピックについて
⑤	千葉県	ディズニーランドについて
⑥	広島県	サンフレッチェ広島の試合について
⑦	滋賀県	琵琶湖について
⑧	長崎県	長崎市の地形について
⑨	鳥取県	梨につて
⑩	島根県	出雲大社について
⑪	石川県	アイスクリームについて
⑫	長野県	県民の歌について
⑬	山梨県	富士山について
⑭	大分県	福沢諭吉について

**Ⅵ 教材づくりの成果と課題**

**1 教師力向上実習Ⅰ**

**① 道徳 「力持ちの新助さん」**

**ア 成果**

第1週目によいとこビンゴで自分の長所を考えさせたことで、物語後の記述で苦戦する子は見られなかった。記述後、班で発表した際、発表者に質問する様子が見られ意欲的に取り組んでいた。

実物の写真を提示した際、子どもたちが写真の方を見ており、授業に対する興味が高まったのではないかと考えられる。持っている様子にも気付き「何キロあるの」、「持つことはできたのか」といった反応もあった。

**イ 課題**

道徳の題材として、愛知県の話という身近な場所であったため、場所を地図で押さえる必要があった。地図で確認することで、少しでも実感がわくのではないかと考える。

実物の写真を提示した際、興味は示したものの、「石は何個ありますか」と質問した際、「見えない」という反応があった。そのため、写真を大きくするか、資料にも実物の写真が記載されているため、資料を見て確認させる方法をとるべきであった。

**② 学級活動 「よいとこビンゴ」**

**ア 成果**

教師自身が示すことで、子供たちの興味が高まり、書きやすい雰囲気を作ることができた。記述している内容をみると、否定的なことを書いている子はいなく、自分のよいところ、得意なところを考えている様子がかんじることができた。また、提示する順番も工夫

し、「笑顔がすてき」という内容を最後に持っていった。そうしたところ、笑いが起こり、取り組みやすい雰囲気をつくることができた。

**よいとこビンゴ**

ルール  
 ① 自分でできることやしてきだなど思うこと、自分のよいところを9つ書きましょう。  
 ② 友だちとあいさつをして、おたがいに書いたことを1つずつ言いあいましょう。  
 ③ 同じことであれば、赤えんぴつで丸をつけましょう。  
 ④ ちがう友だちとくりかえし行いましょう。  
 ⑤ 友だちのよいところをひていしめいようにしましょう。

ダンスが てくい	文章が たくさん ある	国語 が てくい
運動 しんけい が いい	ヒーローズ が できる	字が きれいに かける
えい語 が 話せる	足が はやい	服を、たくさん も てる

(図 11) 児童Aのワークシート(表)

ビンゴをやってみて自分や友達のことや気付いたこと、感じたことを書きましよう

よ

人と自分ではちがう所がたくさんあるけど、みんな色々ないいところをもっていていいと思った。

(図 12) 児童Aのワークシート(裏)

## イ 課題

振り返りの記述を見ると、「ビンゴが少なかった」、「ビンゴにならなくて悔しい」という記述が見られた。自分のよいところ、得意なところは書けてはいるものの、ビンゴにとらわれすぎてしまい、他者のよいところに気付いていなかった可能性がある。その後、他クラスで同じ実践を行ったが、「よいとこビンゴ」から「よいとこサイン」に名前を変え、ビンゴでそろえることをやめた。

### ③ 「まほう使いがやってきた」

#### ア 成果

よいとこビンゴと同様、教師自身が例を示すことで、書きやすい雰囲気を作り出すことができた。交流の際の話し方の型を示したのに加え、教師自身が一度やり方を見せたことにより、交流がスムーズにいった。

## イ 課題

過去を振り返る記述を設けたが、書いている子が少なかった。4年生という年齢は発達上過去を振り返ることは難しいのではないかとともに、なくてもよかったのではないかと感じている。

**まほう使いがやってきた!**

もし、今みんなの所にまほう使いがやってきたら、どんなおまじないをしますか

「1日だけ変身させてあげよう!」

おまじない? かんごし

変身して何をやる? 赤ちゃんのおせわをします。

後、人目かけ。

「願いごとを3つかなえてあげよう!」

1 かんごし  
 2 医者  
 3 薬がほしい

「1回だけ過去にもどしてあげよう!」

「どのとき」にもどる? 保育園の時

変身して何をやる? ちがう小学校交にした友達とあそびたい。

願いごとがかなったら…

何がしたい? どんなんことができるかな?

① 人目かけをしてみんなの病気がなくなるようにしたい。

② 病気になる人を目かけてい。

③ 薬(い)な(あ)か(れ)る(病)気(な)ら(な)お(て)あ(げ)た(ら)い

自分や友だちの発表からどんなことを思いましたか

(4) みんな、それぞれになりたい人や、かなうたいことをもっている人になんと思いました。よく気づいたわ!

(図 13) 児童Bのワークシート

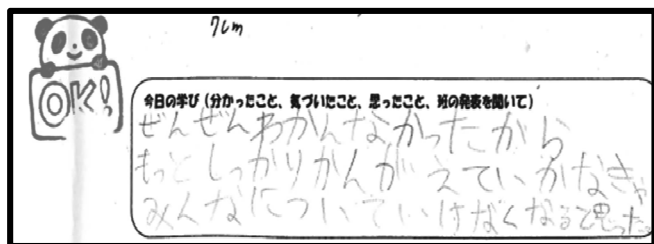
## 2 教師力向上実習Ⅱ

### ① 算数 4年 面積

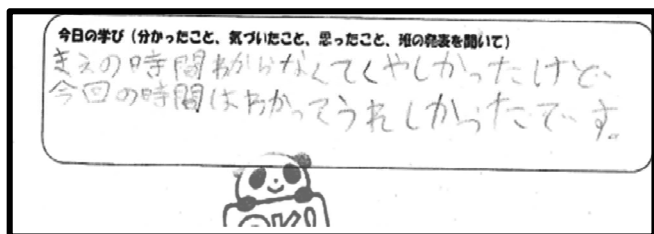
#### ア 成果

第7時の変形図形の学習ではチョコレート的一部分が欠けているものを提示した。提示した際、「食べたい」、「どれくらい食べたの。」といった反応があり、興味を示した様子が見られた。また、①つけたす、②たてにきる、③横にきる、④3つに分ける、という名前を付け、復習する際に分かりやすくした。しかし、変形図形の求め方はあっているものの計算でまちがっている子が多くいた。そのため、第8時は、計算を簡単にし、できるという実感をもたせることにした。また、前時にやった求め方を導入部分で復習し、考え方を想起させた。

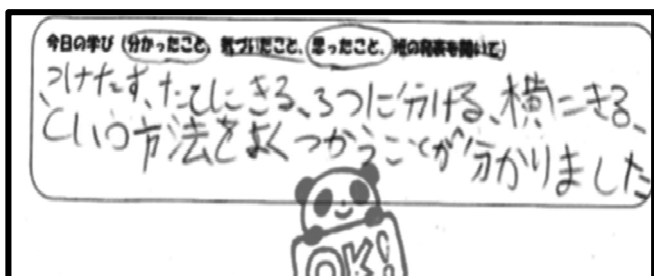
その結果、ほぼ全員の子が1つ以上求めることができていた。また、「ぜんぜんわからなかったから・・・(以下ワークシートの部分に載せる)」と第7時限の振り返りに書いた子がいた。第8時になると、「まえの時間わからなくてくやしかったけど、今回の時間はわかってうれしかったです。」と書いていた。C児は第7時において、求め方が分からず、自分で書いた式を消した姿が見られた。しかし、第8時では求めることができ、2つ以上の求め方を書いてきた。第8時で求め方を復習し、黒板に提示したことで、C児の中で求め方を理解し、記述の変容につながったのではないかと考える。



(図14) 児童Cの第7時のプリント



(図15) 児童Cの第8時のプリント



(図16) 児童Dの第8時のプリント

児童Dの記述から、求め方に名前を付けることで子どもたちの間で定着しやすいのではないかと考える。第8時では求め方を発表する際、「つけたす」、「たてにきる」という表現を用いていた。繰り返して行うことにより、子どもたちの理解が進み問題を解くことができたのではないかと考える。

単位	定義	面積
1cm <sup>2</sup>	1cm × 1cm	1cm <sup>2</sup>
1dm <sup>2</sup>	10cm × 10cm	100cm <sup>2</sup>
1m <sup>2</sup>	100cm × 100cm	10000cm <sup>2</sup>
1ha	100m × 100m	10000m <sup>2</sup>
1km <sup>2</sup>	1000m × 1000m	1000000m <sup>2</sup>

(図17) 第11時に使用した面積の単位の表

第11時に今までの復習として、面積の単位の関係を示した表を作成した。作成するにあたり、公式とm<sup>2</sup>に直すと、という部分を設けた。また、面積の単位が

何倍ずつになっているかという部分にも注目させ、単位の関係を分かりやすくした。1cm<sup>2</sup>の部分は書かずに提示し、子どもに書かせた。表に書きたいという子が多く見られ、学んだことを発表したいという様子が見られた

### イ 課題

国旗を教材として取り扱ったが、面積との関連性が薄かったと感じている。導入で提示する際の興味は高まったが、それ以降は授業をこなすだけになってしまい、学習意欲が高まったとは言えない。教材と授業の関連性を高め、子ども自らが学びたいという気持ちを育てることが必要である。

第7時の変形図形の際チョコレートで提示が、欠けている部分を見せないまま、進んでしまったため、欠けているチョコレートと見立てた茶色の画用紙とチョコレートとの関連が薄かったと考えられる。欠けている実物を見せることで子どもたちの思考の中で、チョコレートと茶色の画用紙が合わさるのではないかと考える。

## 3 都道府県の話

### ア 成果

地図帳で確認していく際、「今日は何県の話をするの」「〇〇県の話をして」といった反応が実践を重ねていく中であった。また、挙手をする際に子どもたち同士で競い合うような様子が見られ、明るい雰囲気をつくることができた。

各都道府県について知っていることを尋ねると、特産物、地形、歴史上の人物などから答えている子が多く見られた。その際、地図帳を見て答えている子が多く、一般的に有名なものでも地図帳に記載されていないことがあった。実践を行う前にも予想はしていたが、自分の想定以上に子どもたちは各都道府県について知識を持っていないことがわかった。

実践後、「他にも、〇〇も知っているよ」「なんでそんなことを知っているの。」と尋ねる子もいた。少しではあるが子どもの視野を広げることができたのではないかと考える。

話に関連する具体物を提示した際、子どもたちの表情や反応から、具体物に興味をもったことが分かった。視覚的にとらえることでイメージしやすくなり、話に対する興味・関心が一層高まるのではないかと感じた。

### イ 課題

地図帳で確認していく際、挙手で競い合うのに夢中になり、位置を確認していない子もいた。各都道府県について知っていることを尋ねた後に教師が話をしていたが、集中力が切れ、話をする子もいた。教師が訪れた際のエピソードも交えて話したが、各都道府県の話と関係なかったり、面白いだけで終わることもあった。各都道府県の特徴も説明しながら話せば、



効果があったのではないかと感じる。

選んだ題材が子どもたちにとって、身近であったかということには疑問が残る。大分県の話などでは1万円札を提示し福沢諭吉の話へとつなげることができたが、身近でない実践が多かった。選んだ題材と子どもたちの実態を合わせることが必要である。

実践を朝の時間に行っていたため、時間が限られており、1時間目に入ってしまうこともあった。理由として、自分の話がまとまらない、各都道府県について知っていることを多く発言させすぎた等が挙げられる。時間配分を考え、内容をまとめながら、子どもたちに話していく必要がある。

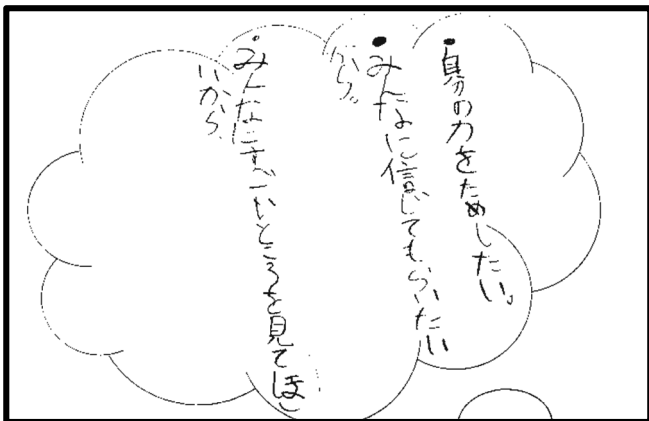
## Ⅶ 授業実践としての成果と課題

### 1 道徳「力持ちの新助さん」

#### ア 成果

物語を読み終えた後、これから伸ばしたい長所について個人で考えさせた後、班で発表を行い互いの長所を認めあう活動を行った。活動は活発に行われており、互いの伸ばしたいところが分かったのではないかと考える

配当クラスでの実践の前に他クラスで実践を行った。主発問を「なぜ、新助さんはみんながいやがる重い荷物をはこんだのでしょうか」と設定した。しかし、子どもたちの記述を見ると、「大会で勝ちたい、優勝したい」という記述が多く見られた。そのため、配当クラスでの実践では主発問を「なぜ、新助さんは大会に出たいと思いませんか。」に変えた。結果、配当クラスの実践では、他クラスと比べねらいに近い発言が多く出た。



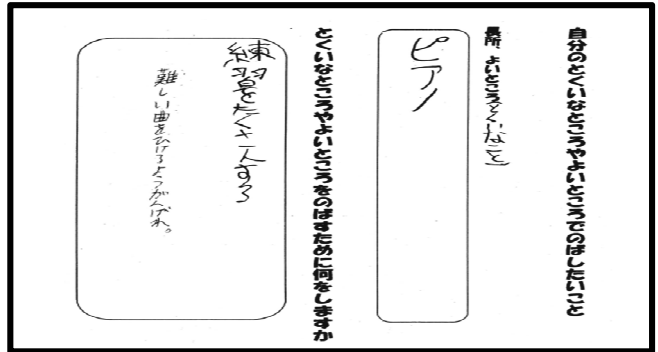
(図18) 児童Eのワークシート(表)

#### イ 課題

物語が自分の長所をのぼそうとしている内容であったため、努力しているという点にもっと焦点を当てるべきであったと感じている。

児童Eが「みんなにすごいところを見てほしいから」という授業のねらいにせまる発言をした。その後何人

か発言をしたが、児童Eの発言が全体に伝わらず、授業が進んでしまった。時間がなかったこともあり、進んでしまったが、よい発言を全体に伝わるような声かけが必要であった。



(図19) 児童Eのワークシート(裏)

### 2 学級活動「よいとこビンゴ」

#### ア 成果

交流の場では、孤立する子がなく、全員が活動していた。振り返りのコメントでは、「みんないろいろなところをもっていると思った。」「みんなの好きなところやいいところを知って、『あー、そうだなあ』』という記述が見られた。

#### イ 課題

記述後に全体で交流の場を設けたが、同性どうしでやっている様子が見られ、男女の交流が少なかった。記述の前に質問の時間を設けたが、予想以上に時間が掛かり、記述の時間、交流の時間が短くなってしまい、教師が例を示す必要があると感じている。振り返りの際、子どもたちが書いて終わりにしてしまっただけのため、子どもを指名し、全体で振り返ることが必要であった。

### 3 学級活動「まほうつかいがやってきた」

#### ア 成果

交流を班ごとに行ったが、その中で発表者に対して質問している様子が見られ、意欲的に取り組んでいた。また、一人の発表時間を2分にしたが、子どもたちにとっては適切な時間配分で、飽きることなく活動していた。

#### イ 課題

過去の部分が書けていなかったため、書く時間を延長したが、集中力が欠けてしまった様子が全体に見られた。クラスの授業中の実態から、きっちりと時間で区切る必要があると感じた。

### 4 算数「面積」

#### ア 成果

1 m<sup>2</sup>や 1 a の作成では、協力して作成している様子から意欲的に取り組んでいると感じた。また、1 a を作り終えた後、「1a は思ったよりも大きい。」と述べた子



が多くいた。子どもの発言から実感を伴った理解ができたのではないかと考える。

1 km<sup>2</sup>の学習では学区を含む市の地図を少しずつ見せることで、どこの地図かを考えさせながら、興味を高めていった。学区の地図から市の面積に発展していき、子どもたちから市の面積はどれくらいかという発言が出た。

## イ 課題

国旗を教材として取り扱ったが、面積との関連性が薄かったと感じている。導入で提示する際の興味は高まったが、それ以降は授業をこなすだけになってしまい、学習意欲が高まったとは言えない。教材と授業の関連性を高め、子ども自らが学びたいという気持ちを育てることが必要である。

## Ⅷ おわりに

### 1 今後の課題

#### ① サポーター活動、教師力向上実習を通しての学び

##### (1) 教材についての学び

###### ア 教材研究について大切に

サポーター活動や実習で授業実践を行ったが、教材研究の質が授業に影響することを実感した。算数の実践の際、何も考えず教科書の問題とは違う問題を作成し授業を行ったことがあった。授業を行う前は、自身を持っていたものの、実際に行くと上手くいかなかった。教科書の問題、図、グラフには意味を持っており、把握したうえで教材研究を行わなければ子どもの学びにならない。教科書を熟考したうえで、工夫を加え、子どもが楽しい、わかるという授業を行っていく必要がある。

###### イ 教材の効果

教材研究を通して、子どもたちにどのような効果があるのかを考える必要があると感じている。実習やサポーター活動では、子どもたちが見なれているもの、興味があるものを中心に教材を選択・開発、活用していった。子どもたちは興味を示し、反応もよかったことが分かった。しかし、教材には意味や意図をもっており授業のねらいに対応しなければならない。その部分が自身の授業実践では考えられてなく、子どもたちにとって、教材を提示して楽しい、面白いだけで終わってしまった。教材の持つ背景を把握した上で教材を授業で取り入れていけば、子どもたちにとってより効果があり、よりよい授業ができると考える。

###### ウ 教材の工夫

実習では使用した教材が授業の目標を達成するための補助的な役割を担った。期間や教科の特性上、習得させるために教材を用いた。しかし、社会科や総合的な学習の時間などでは、提示した教材をもとに、子どもたちが自らの力で調べ、探求する授業を行っていきたい。社会科や総合的な学習の時間などは子どもたち

の身のまわりや地域について学習する。子どもたちは一人一人考えを持っており、探究する授業を行えば、多くの考えがでて、物事の視野が広がると考えられる。社会科や総合的な学習の時間などの教材研究をするにあたり、どの教材を用いれば、子どもたちの中で問題意識が生まれるかということ意識していく。

## エ 自己開示について(見えない教材)

子どもたちとの関係を築く上で自己開示は大切であると学んだ。実習Ⅰでは自己開示を中心に実践を行っていく中で、子どもたちに自分がどんな人物かということを知ってもらった。子どもたちの様子から自己開示が教材になることが分かり、成果を得られたと感じている。実習Ⅰ終了後、子どもたちから私に関する質問が実習Ⅰの前よりも増えた。学部での教育実習やボランティアの経験からも子どもたちは教師のことを知りたいと思っている。教師としての立場、情報など守らなければならないこともあるが、積極的に自己開示を行っていき子どもたちの関係を作っていく。それが見えない教材になると考える。

## オ 教材の提示方法

教材の提示方法という点からも工夫していく必要がある。授業実践を通して、教材の開発にばかり注目してしまい、提示方法はほとんど考えなかった。しかし、実践を行う中で教材の提示方法を工夫してみると、子どもたちが食いついた様子が見られた。提示方法により、教材に対する子どもたちへの興味・関心が一層高まるのではないかと考える。提示方法ということも頭において、教材研究を行っていく。

### (2) 授業実践としての学び

#### ア かかわりあいを取り入れた授業

子どもたち同士でのかかわりあいを取り入れた授業を行うと新たな考えや視点が広がった。実習校ではペア学習やグループ学習を積極的に取り入れており、私の実習の際も行った。授業中の発言や振り返りのコメントから、授業の深まりだけではなく、他者を認める発言が多く見られた。実践の際に、重要ではない発問にペア・グループ学習を行ったことがあり、ねらいにせまれないこともあった。なんとなく、ペア・グループ学習をやるのではなく、授業の目標が達成できるようにしなければならない。また、子どもの実態に応じた発問をすることで、形式的にならない、ペア・グループ学習ができるのではないかと考える。教員になるにあたり、授業のねらいにせまり、子どもが意欲的に取り組むかかわりあいの授業を行っていく。

かかわりあいの授業を実践していく中で、全体では発言しない子がペア・グループの際は発言している様子が見られた。実習校において多くの先生の授業を見ながら、学年が上がるにつれ全体場で発言する子が少なくなっていた。子どもの発達上の特性からだと考えられるが、発言しない子どもでも、自分の意見を持って

いる子は多い。そうした子に活躍の場を与えるためにも、かかわりあいの授業は必要だと考える。また、ペア・グループ学習の様子から、子どもたちの表情がよくなることが見られた。自分にはない他者の考えを知ること、子どもたち同士な学びあいが進むのではないかと考える。

## イ 子どもの成長

教師力向上実習Ⅰ・Ⅱを通して、子どもの成長を感じた。実習Ⅱでは、実習Ⅰと同じように授業を進めていけばいいという考えを持っていた。しかし、実践を行うと上手くいかないことがあった。教材研究不足が原因なのではないかと考えたが、実習を進めていくにつれて、子どもの成長と自分が考える子どもの実態にずれがあることに気付いた。ずれを修正するため、子どもとの関係を気付き直し、授業の行い方の改善を図った。教師と子どもの関係性も授業を行う上で大切な要素の一つである。日々成長していく子どもたちに、教師も子どもたちの成長を感じとらなければならない。

## ウ 板書について

授業実践を通して板書の大切さを実感している。実践を行う中で板書計画をたてなかった際、まとまりのない板書になってしまったことがあった。また、板書計画をたてていても、実践では思った通りにはならず、板書計画から柔軟に変更していくことも学んだ。作成した教材を黒板に貼ることで、子どもたちの思考の助けとなる。授業を行う際は板書計画を行い、授業に臨んでいく。

## ② 目指す教師像

私は自ら学びたいと思える子どもたちを育てていきたいと思う。そのために、教師は魅力的な授業を行う必要がある。サポーター活動、教師力向上実習を通して、教師としての人間性を高めていくことも、授業力を高める方法だと学んだ。子どもの気持ちに寄り添い、関係を築くことが授業を行う上で大切である。子どもとコミュニケーションをしっかりと取り、子どもの考え思いを組みとり、子どもの可能性を伸ばす授業を行っていきたい。

授業を行っていく上で、魅力ある教材の開発・活用も継続して行っていく。実習では教材づくりを通じて、子どもたちの学びたいという気持ちを引き出せたと感じている。さらに、子どもの実態に合わせた教材を開発するとともに、活用方法も工夫していく。

本実習では少なかった地域教材を扱った授業を行っていききたい。サポーター校では、様々な授業において、地域教材を取り扱っており、子どもたちが地域教材に興味を示す様子が見られた。子どもたちの生活に関わるものを教材として扱うことで、実感を伴った理解が得られる、体験学習とも関連するが、地域教材を扱い、実際に体験することが子どもたちに新たな発見を与え、地域のことを今まで以上に知れるのではないかと考え

る。生活をしていく上ですべてのものが教材になると私は思う。この気持ちを忘れずに、教材を開発・活用していきたい。

子どもの学びを促進するため、私自身が生涯に渡って学び続けていく。大学院 2 年間は学部時代と比べ、自ら学んだことが多かった。自ら学んだことにより、新たな発見が多く得られた。この発見がサポーター活動や実習で大いに役に立った。学び続ける姿勢を持ち続け、教員生活を過ごしていきたい。

最後に、授業での学び、サポーター活動、実習で学んだことを 4 月からの教員生活に生かしていき、自身の教師力を日々向上させていきたい。

## 付記

本実践を進めるにあたり、連携協力校の校長先生を始め、指導・助言を頂いた先生方には大変お世話になりました。お世話になったすべての先生方に心から感謝申し上げます。

学校サポーター、教師力向上実習で指導を頂いた中妻雅彦先生をはじめ、諸先生方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## 参考文献

- ・有田和正『教材発掘の技術』(明治図書 1989)
- ・有田和正『学習意欲はこう高める 第1巻』(明治図書 1989)
- ・有田和正『授業の技を磨くあり方を問う』(明治図書 2009)
- ・越智康子、大東和子他『授業ですぐ使える！自己肯定感がぐんぐんのびる 45 の学習プログラム』(合同出版 2012)
- ・俵原正仁『なぜかクラスがうまくいく教師のちょっとした習慣』(学陽書房 2011)
- ・山中伸之、内田聡『できる教師の子供を変えるステキな言葉』(学陽書房 2009)
- ・福山憲市『算数科「言語活動の充実」事例』(明治図書 2010)
- ・金本良通『小学校学習指導要領の展開 算数科編』(明治図書 2008)
- ・小林道正、市川良『こまったときの算数の教え方 4 年生』(大月書店 2010)

## 注記

- <sup>i</sup> 『小学校学習指導要領総則編』(文部科学省 2008)
- <sup>ii</sup> 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領改訂について」(中央教育審議会答申 2008)
- <sup>iii</sup> 『全国学力・学習状況調査』(文部科学省 2011)
- <sup>iv</sup> 『教材辞典』(日本教材学会 2013)
- <sup>v</sup> 『小学校学習指導要領社会編』(文部科学省 2008)